

第6学年 家庭科 学習指導案

奈良市立西大寺北小学校 教諭 大東実穂

1. 単元名 「すずしい住まい方で快適に」

2. 単元の目標

・季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。

(知識・技能)

・夏の快適な住まい方について、「持続可能な社会」の視点から、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践・評価・改善し、課題を解決する力を身に付けている。

(思考・判断・表現)

・快適な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し実践しようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領 B衣食住の生活(6) 快適な住まい方 ア(ア)「住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解すること。」を関連させて扱う教材である。本教材では、自分の生活を振り返り、夏を涼しく快適に過ごすために、以下の四つの観点への理解を得ることができる。

一つ目は、夏季を涼しく過ごすための方法である。近年、地球温暖化や異常気象によって猛暑が続いている。そのなかで、エアコンの力だけに頼らないよう、室内環境を整えることで涼しさを生み出す方法について学ぶことができる。

二つ目は、日本の生活文化や昔からの生活の知恵である。うちわ、すだれ、打ち水等、日本で昔から用いられてきた生活の知恵を取り上げ、自然の力を利用して涼をとる方法を学ぶことができる。

三つ目は、体調を崩さない健康的な体づくりである。暑さと体調の関係に気づき、自分の体を守るために生活環境を調整する重要性を理解することができる。

四つ目は、地域に生えている植物の活用である。校区付近にある平城宮跡には、オギが生えている。そのオギを用いて生活用品を作ることで、地域に根ざした自然との繋がりや、環境に優しい工夫を理解するきっかけとなる。

これらの四つの学びを通して、児童は快適さ・文化・健康・地域を関連付けながら、持続可能な暮らし方に気付くことができる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、快適に過ごすための住まい方について、第5学年で「寒い季節を快適に」の学習をしている。その学習を振り返りながら、暑い季節の過ごし方を対照的に捉えて考えを深めることができる。

児童に、「夏を涼しく快適に過ごすためにどのようなことをしているのか」について尋ねたところ、ほとんどの児童に共通していた方法は「エアコンを使用する」ことであった。空調設備の普及により、快適な生活を送ることが可能になっている。

一方で、空調設備に頼りすぎている部分もあり、気温の変化に順応できず体調を崩す児童も多い。自分の生活を振り返り、快適に健康に過ごすための方法を知り、季節に応じた住まい方の工夫を考えさせたい。

(3) 指導観

本単元では、児童が「自分の生活をよりよくするために考え、行動する」ことができるよう指導していきたい。そのために、以下の四つの観点を意識して指導を行う。

一つ目は、夏季を涼しく過ごす方法を考える力を育むことである。夏の過ごし方を振り返ると、「エアコンを使用すること」に頼っている児童が多いとわかった。ここで、2019年9月に起きた千葉県の大規模停電の話をし、エアコンに頼りすぎず、自然の力を活かして快適に過ごす方法や、住まい方の工夫を知り自分なりに考える必要性を感じさせたい。

また、風通し、温度、湿度、日差し、音等を取り上げ、実験的に試すことで、室内環境の調整について体験的に学べるようにする。

二つ目は、昔からの知恵を生活に活かそうとする態度を育てることである。打ち水・すだれ・うちわ等長く受け継がれてきた生活の知恵に触れ、自然の力を活かす方法を体験させる。昔からの知恵が現代でも役立つことを実感できるよう指導していきたい。

三つ目は、健康に過ごすために生活環境を整える力を育むことである。快適に過ごすために使っているエアコンだが、そのエアコンだけに頼ってしまうと、寒いと感じたり、気温の変化に順応できず体調を崩したりして、快適な生活とは言えなくなってしまう。効果的な冷房機器の使用と、昔からの知恵である様々な方法を取り入れながら、自分の体調に合わせて環境を調整する重要性に気付くことができるようにする。

四つ目は、地域のオギを活用し、体験的な学びを促すことである。校区の近くには平城宮跡があり、そこにはたくさんのオギが生えている。刈られて使わなくなったオギを、すだれや室外機カバーとして再利用する体験を通して、自然素材を生活の中に取り入れる価値を感じてもらいたい。友達と試行錯誤しながら協力する活動を取り入れ、実践的な学習にし、地域との繋がりにも気付くよう支援する。

以上のような指導を通して、自然の力を活かした快適な過ごし方について学ぶことは、エネルギー問題や環境問題への意識を高めるきっかけとなる。SDGsの7、13の目標とも関連付け、持続可能な暮らし方を考え、行動できるよう指導していきたい。

(4) ESD との関連

○ESD の視点

- ・ 有限性：自然エネルギーを効果的に取り入れ、化石燃料に頼りすぎない暮らし方を工夫することができる。
- ・ 責任性：人任せにせず、環境のことを考えて自ら行動することができる。

○ESD で育てたい資質・能力

- ・他者と協力する態度：室外機カバーを作るために、試行錯誤しながら友達と協力することができる。
- ・進んで参加する態度：自分が良いと思ったことを積極的に行動にうつすことができる。

○ESD で育てたい価値観

- ・自然環境、生態系の保全を重視する。：環境にやさしい方法も活用しながら、気候に合わせた住まい方ができる。

○関連する SDGs

- ・ 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
- ・ 13 気候変動に具体的な対策を

4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に取り組む態度
①季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解している。	①夏の快適な住まい方について、「持続可能な社会」の視点から、問題を見いだして課題を設定している。 ②解決方法を考え、実践・評価・改善し、課題を解決しようとしている。	①快適な住まい方について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し実践しようとしている。

5. 単元の指導計画（全 11 時間）

学習活動	学習への支援	評価
1 ○夏の過ごし方を振り返る。 ・暑い季節をどのように乗り越えてきたのか、自分の生活を振り返る。	・エアコンや扇風機等、たくさんのエネルギーを使っていることに気づかせる。 ・大規模停電や災害の話をし、電気が使えない場面に出会う可能性があることを伝え、自然素材を用いた暑い季節を乗り越える方法を知る必要性を感じさせる。	ウ① イ①
2. 3. 4 ○夏を快適に過ごすための様々な方法を知る。 ・家の人に聞いたり、タブレットで調べたりする。	・夏を快適に過ごすための方法について、クラス全体でも情報を共有し、動画を見たり実際に体験したりして、理解を深められるようにする。	ア① イ②

<ul style="list-style-type: none"> ・わかったことをグループで発表し合う。 		
<p>5. 6○平城宮跡の方から、話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な日本の建築技術や昔からの知恵、地域の話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーとして平城宮跡の方を招き、日本の建築技術について、理解を深められるようにする。 ・平城宮跡で刈り取られるオギの、再利用法を考えられるようにする。 	ウ① イ②
<p>7. 8. 9○地域の自然素材を使って、すだれや室外機カバーを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡のオギを使い、すだれや室外機カバーを作り、学校に設置する。 ・SDGs との関わりに気づき、学びを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡のオギを再利用し、みんなで試行錯誤しながら、協力する体験ができるようにする。 ・昔からの知恵や自然素材を使うということは、自然に優しい方法だということに気付かせる。SDGs「7エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「13気候変動に具体的な対策を」との関わりや、持続可能な暮らし方について考えられるようにする。 	ウ① イ①
<p>10. 11○自分の生活に合わせて、快適に過ごす方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分にできることを考え、実際にやってみる。取り組みを振り返り、クラスで発表する。 ・これまでの学習を振り返り、夏を快適に過ごすための方法についてのポスターを作り、校内に掲示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返り、自分の生活に合わせて、快適に過ごすための方法を考えることができるようにする。 ・実際にやってみて、良かった点や改善点を振り返らせ、今後につなげられるようにする。 ・学習してきたことをポスターにまとめさせ、他の学年の児童にも知ってもらえるようにする。 	イ②